

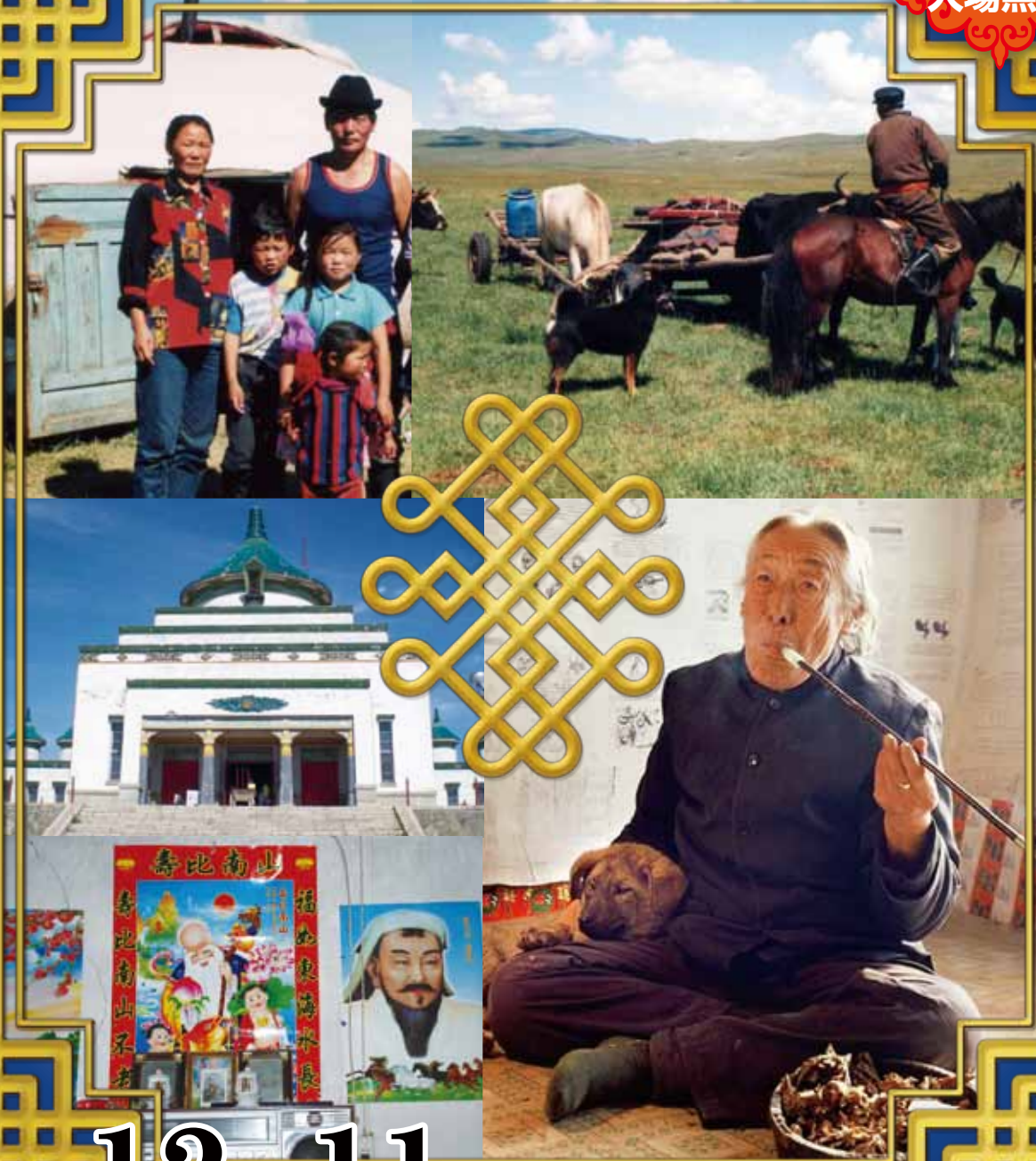


東北大学

東北大学東北アジア研究センター公開講演会

モンゴル世界を 考える — その歴史と現在

入場無料



2010年12月11日(土) 14:30 ~ 17:00 (開場14:00)

講演 1 | 岡 洋樹 (東北大学東北アジア研究センター教授)
「東北アジア史の中のモンゴル」

講演 2 | ボルジギン・ブレンサイン (滋賀県立大学人間文化学部准教授)
「現代の眼差しでモンゴルを見よう — 日本・モンゴル関係の過去と現在 —」

会場 仙台市戦災復興記念館
〒980-0804 仙台市青葉区大町二丁目12番1号

主催 / 東北大学東北アジア研究センター (<http://www.cneas.tohoku.ac.jp>)
お問い合わせ / 東北アジア研究センター事務室 (022-795-6009)

共催 / 東北アジア学術交流懇話会

2010年12月11日(土) 14:30～17:00

会場 仙台市戦災復興記念館

〒980-0804 仙台市青葉区大町二丁目12番1号

入場無料

※事前のお申し込みは不要です

東北大学東北アジア研究センター公開講演会

モンゴル世界を考える

—その歴史と現在

モンゴル民族は、東北アジア内陸部、すなわちモンゴル国・中国内モンゴル自治区を中心に暮らしている。その人口は両国あわせても一千万に満たないが、アジアの歴史をきわめて重要な役割を果たしてきたことはよく知られている。モンゴル人は、独特の遊牧文化をもつ民族である。しかし19世紀以後近代化や周辺のみならずさまざまな民族との交流は、その文化にステレオタイプ化した遊牧民イメージには収まらない多様性をもつに至らした。そして我々日本人は、モンゴルの変容の過程にたいへん大きな関わりをもったのである。

今回の講演会では、中国内モンゴル出身の新進気鋭の歴史研究者ブレンサイン氏をお招きし、内モンゴル人としての立場から、モンゴル世界の歴史と今、そして日本との関わりなどについて縦横に論じていただく。

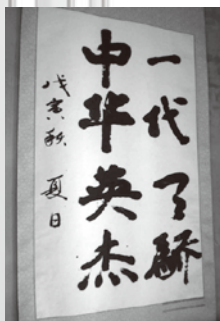
プログラム 総合司会：栗林 均（東北大学東北アジア研究センター教授）

14:30～14:35 開会挨拶
佐藤源之（東北大学東北アジア研究センター長）

14:35～15:15 講演1
「東北アジア史の中のモンゴル」 岡 洋樹

15:15～16:15 講演2
「現代の眼差しでモンゴルを見よう
—日本・モンゴル関係の過去と現在—」
ボルジギン・ブレンサイン

16:30～17:00 ディスカッション
ボルジギン・ブレンサイン、岡 洋樹



講師紹介

岡 洋樹 おか ひろき

1990年、早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、早稲田大学非常勤講師、群馬大学非常勤講師、東京外国語大学非常勤講師、東北大学東北アジア研究センター助教授、准教授を経て、2006年より現職。博士（文学）。専門は東洋史、モンゴル史。

< 主要業績 > 『清代モンゴル盟旗制度の研究』（東京：東方書店、2007年）、『朝倉世界地理講座 — 大地と人間の物語-2 東北アジア』（境田清隆、佐々木史郎と共編）（東京：朝倉書店、2009年）、『内なる他者=周辺民族の自己認識の中の「中国」-モンゴルと華南の視座から-』（編）（仙台：東北大学東北アジア研究センター、2009年）、『清代モンゴルにおける旗籍離脱と清朝統治-ウラド後旗と広覚寺の属民争奪の経緯からみた旗民の地位-』（塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流-近現代中国の南と北-』人間文化叢書 ユーラシアと日本-交流と表象-。東京：有志舎、2010年3月）など。

ボルジギン・ブレンサイン Borjigin Burensain

2001年、早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員（DC2）、同外国人特別研究員、東京経済大学非常勤講師、神奈川大学非常勤講師、早稲田大学非常勤講師などを経て、2006年より滋賀県立大学人間文化学部准教授。博士（文学）（早稲田大学）。専門は社会史、中国東北、内モンゴル地域論。

< 主要業績 > 『近現代におけるモンゴル人農耕村落社会の形成』（東京：風間書房、2003年）、『九世バンチェン=エルデニの東部内モンゴル歴訪と奉天当局の対応-モンゴル、チベット、中国三者関係の構造をめぐる事例研究として-』（『日本モンゴル学会紀要』31、2001年）、『定住村落形成と内モンゴルの沙漠化-ホルチン地域を事例に-』（『沙漠研究』Vol.11、No.1、2001年）、『境界に生きるモンゴル世界-二十世紀における民族と国家-』（ユビョジョンと共著）東京：八月書館、2009年など。